

慶應義塾大学病院

診療科のご案内 2010

Keio University Hospital

漢方医学センター

平成5年、「現代医学のなかで漢方治療をより良く生かす」を理念に当センターが開設されました。最先端医療と体にやさしい漢方診療とを同時に受けられる数少ない施設です。脈診・舌診・腹診など東洋医学の伝統的な診断方法に基づいて、個々の患者さんに最も適した伝統的な漢方薬による保険診療を行っております。

■センター長



渡辺賢治 准教授

概要

〈診療体制〉

担当医師は日本東洋医学会の理事3名、専門医8名を中心とした漢方のエキスパートです。脈診・舌診・腹診などの漢方医学の伝統的な診断方法に基づいて治療を行っています。漢方ばかりか基本領域の専門でもある専門医が、水曜午後にはアトピー外来、木曜午後には女性抗加齢外来の専門外来を行っています。

〈治療方針〉

「この病気には漢方がいいのでしょうか、西洋医学がいいのでしょうか」という質問をよく受けますが、どのような病気に対しても漢方は適応になるといっても過言ではありません。大切なことは「治すべきは病気ではな

く、患者さん自身である」ということです。当科では、西洋・東洋医学両方のよい点を組み合わせて治療を行っています。

〈得意分野〉

漢方治療が向いていない病気としては、1) がんや腫瘍などの手術が必要な病気、2) 抗生物質が必要な感染症、3) 緊急処置の必要が高い病気（急性腎不全、急性心筋梗塞など）などがあります。漢方では、基本的に治療を希望される患者さんには、その治療効果を説明した上で、可能な範囲で漢方治療を行っています。全く対応できない疾患は非常に少ないといえます。漢方治療を希望される方は、是非問い合わせください。

対象疾患

胃腸障害、慢性肝炎・アレルギー疾患・不妊症、習慣性流産などの産科疾患・月経異常、冷え症、更年期障害などの婦人科疾患・心身症、自律神経障害、神経症など・

老化に伴う種々の症状（前立腺肥大、しびれ、膝痛など）・高血圧、糖尿病など生活習慣病・風邪をひきやすい、などの虚弱児・癌や膠原病などに伴う体調不良

高度先進・特殊医療

漢方製剤は天然の生薬を使用しています。一つの方剤は数種類の生薬で構成されているので、多くの成分を含んでいます。そのため様々な効果が期待でき、ひとつの方剤で色々な病状に対応できるケースが多いという利点があります。用いる漢方薬は服用の簡便なエキ

ス剤が主ですが、伝統的な煎じ薬をお出しすることもあります。いずれも保険が適用となりますので、経済的負担が少なく専門家の診療が受けられます。アトピー性皮膚炎、冷え症・更年期症候群に関しましては、特に専門性の高い医師が対応しております。

主な検査

漢方治療により、少ないながらも副作用が出現することがあります。このために、スクリーニング検査として、

血液・尿検査を定期的に行っております。愁訴により、画像検査、内視鏡検査なども依頼することがあります。

研究内容のご紹介 http://web.sc.itc.keio.ac.jp/kampo/index_1-06.html

(1) 腸内細菌と漢方薬の関係（漢方薬の効果発現に腸内細菌は必要なのか？）
(2) 外科手術における漢方薬（手術侵襲が生体にどのような影響を与え、その時、漢方薬はどのような役割を果たすことができるのか？）

(3) 神経変性疾患と漢方薬（パーキンソン病、アルツハイマー病のような神経変性疾患治療に漢方薬は使えるのか？）

その他

漢方医学では、鼻や皮膚の病気であっても、病気になっている部分だけを診るということではなく、体質や個人差を重要視して、身体全体を総合的に診て診断（証をとるといいます）が行われます。医師は患者さんの様子を

観察し、質問したりしながら、その人の抵抗力・体力等も診て「虚」「実」「寒」「熱」等の漢方医学的な診断を行い、証を決めていきます。証が決まると西洋病名に関係なく、使用される方剤が決まり治療が始まります。

診療担当医師

曜日	担当医師・専門分野	曜日	担当医師・専門分野
月	午前：西村 甲：内科小児科 午後：徳永 秀明：内科	木	午前：西村 甲：内科小児科 午後：渡邊 賀子：内科
火	午前：秋葉 哲生：内科小児科 午後：福澤 素子：内科	金	午前：今津 嘉宏：外科 午後：松浦 恵子：内科小児科
水	午前：渡辺 賢治：内科 午後：前嶋 啓孝：皮膚科 午後：荒浪 暁彦：皮膚科	土	午前：坪井 貴嗣：精神神経科 午前：松浦 恵子：内科小児科

※紹介患者さんの診察は「午前」担当医になります。

※「診療担当医」は変更される場合があります。ご紹介いただく際には「紹介事前受付」を活用いただき、医師の診察日をご確認いただきますようお願いいたします。